

持続可能な社会の実現のために地域に根差した継続的な活動を支援 第18回「TOTO水環境基金」助成先団体を決定 ～国内7団体、海外6団体に計2,733万円を助成～

TOTO株式会社(本社:福岡県北九州市、社長:清田 徳明)は、このたび第18回「TOTO水環境基金」の助成先団体を決定しました。

選考の結果、国内7団体、海外6団体の計13団体に計2,733万円を助成します。これにより2023年度は、既に活動中の7団体とあわせて、合計20団体のプロジェクトへの支援となります。今回の助成により、2005年の設立以来、のべ305団体に対して4億4,389万円の助成を行うことになり、活動地域は国内42都道府県、海外17カ国に及びます。

今年度、国内では海岸の清掃活動に参加した方々より「子どもがゴミを拾うことから環境に対して興味を持つことができた」「海岸にたくさんのゴミがあることを知る機会になり、環境への意識が身についた」と言った感想が寄せられています。また、海外からは避難民が利用する井戸の修理により「安全な水が得られることができとてもうれしい」など、喜びの声が寄せられました。

TOTOは創立以来「水」に関わる事業を展開してきた企業として、2030年に「持続可能な社会」と「きれいで快適・健康な暮らし」の実現を目指す、新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030のもと、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献し、今後も世界で必要とされ続ける会社を目指します。



海岸の清掃活動の様子(福岡県)



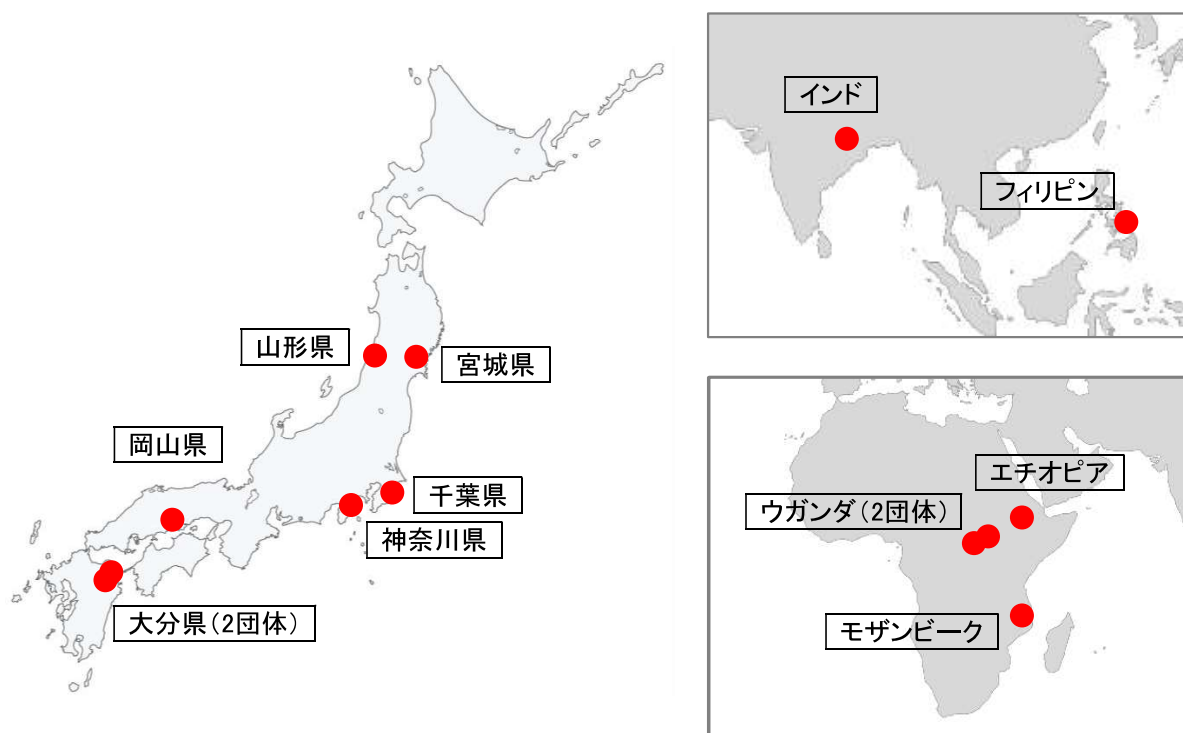
修理した井戸から給水している様子(モザンビーク共和国)

「TOTO水環境基金」について

TOTOグループは、持続可能な社会の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせないと考え、2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に取り組む団体への助成を続けています。

「地域に根ざした活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」を中心に選考を行い、想いを同じくする団体とプロジェクトを実施しています。当基金は助成によって活動を後押しするだけでなく、最寄りの事業所のグループ社員が中心となって積極的にボランティア活動に参加する「協働」にも力を入れています。

第18回「TOTO水環境基金」助成プロジェクトの活動地



第18回「TOTO水環境基金」助成先団体一覧

| | 団体名・プロジェクト名 | 活動地域 | 活動内容 | 助成期間 | | |
|---|--|------|--|--------|--------|--------|
| | | | | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
| 1 | 団体名： 庄内自然博物館構想推進協議会 プロジェクト名： 市民参加型の湿地資源の活用と循環による持続的な湿地再生と地域文化の継続の検討 | 山形県 | 高館山、大山上池・下池、都沢湿地を自然学習のフィールドとして、子どもたちをはじめ市民みんなが自然との一体感を享受できるように、自然と触れ合う機会を創出することを狙いに2011年に設立。交流拠点施設の鶴岡市自然学習交流館では、学習の機会を提供している。 本プロジェクトでは、マコモを始めとする湿地動植物を積極的に活用することで、湿地の開放水面を創出。活動フィールドを拡大し、レンコンなどの資源の活用から「地域間の資源循環」および「地域文化の継続」の新たなアプローチを加えて、多様な世代が多様な目的で「楽しく」活動に参画し、持続可能な湿地再生活動を検討していく。 | ○ | — | — |

| | 団体名・プロジェクト名 | 活動地域 | 活動内容 | 助成期間 | | |
|---|---|------|--|--------|--------|--------|
| | | | | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
| 2 | 団体名： 小泉ユニバーサルビーチユニット プロジェクト名： 水環境を整え自然を保全していくまちづくり -海・山・川・ビオトープがある町- | 宮城県 | 2020年、東日本大震災から9年ぶりに小泉海岸海水浴場がオープンした。その一方で住民の津波体験による海離れは深刻で、更には県内最大高の防潮堤も相まって訪れる一般者がいなくなった。そこで、誰もが安全に楽しめるような海岸づくりと、賑わいを創出する民間組織の構築を目的に、地元有志が発起人となり設立。 本プロジェクトでは、行政・他団体も巻き込み市民参加型の「各場所のゴミ拾い活動」「景観を取り戻す活動」「ゴミの調査」「探鳥会」を実施する。 | ○ | - | - |
| 3 | 団体名： 特定非営利活動法人さざなみ プロジェクト名： 習志野の海を守る会 「とりもどせ！ぼくたちの海」 | 千葉県 | 地域在住の一般市民が地元を愛し、大切に続けられる環境作りを主たる目的として設立。習志野の海辺を「生活に密着し、触れ合うことのできる海辺」へと再生する事に向け海岸清掃を始めとする海辺環境整備に必要な諸活動を行う。 本プロジェクトでは、習志野市の東京湾岸エリアでプラスチックごみ等の海洋ゴミの回収・清掃活動を定期的に行う。また年一回以上の環境に関する講習、イベント等を行い、一人でも多くの方に、自然保護や生物が生き続ける事が出来る環境作りに関心を持ち、行動して頂けるように実践、啓発を行う。 | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 団体名： 特定非営利活動法人 エバーラスティング・ネイチャー プロジェクト名： 絶滅危惧種であるウミガメ類の海洋ゴミ誤食調査と普及啓発イベント | 神奈川県 | インドネシアのウミガメ類の保全のため、現地との協働でインドネシアウミガメ研究センターを設立。同研究センターの日本窓口として立ち上げたエバーラスティング・ネイチャーは、2002年7月に神奈川県NPOとして承認された。 本プロジェクトでは、絶滅危惧種であるウミガメ類の人工物の誤食状況の実態調査、および海洋環境汚染問題を実体験してもらうことを目的とした体験イベントや普及啓発イベントを開催する。 | ○ | ○ | ○ |

| | 団体名・プロジェクト名 | 活動地域 | 活動内容 | 助成期間 | | |
|---|--|------|---|--------|--------|--------|
| | | | | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
| 5 | 団体名： 公益財団法人 水島地域環境再生財団 プロジェクト名： 瀬戸内海の守り人 "海ボウズ" 育成プロジェクト | 岡山県 | 岡山県倉敷市水島地域で戦後に建設されたコンビナートは日本の高度経済成長を支えたが、公害問題により倉敷大気汚染公害裁判がおこなわれた。この解決金の一部を基金に、水島地域の生活環境の改善を目的として財団を設立。本プロジェクトでは、全国でも有数の用水路王国である岡山県倉敷市で、用水路およびその周辺でのごみ拾い活動を市民に呼びかけ、定期的実施する。また、その取り組みを見える化することで、社会にその成果を発信し、瀬戸内海に流入するごみの減量化を目指す。 | ○ | — | — |
| 6 | 団体名： 特定非営利活動法人 おおいた環境保全フォーラム プロジェクト名： 豊かな水環境を目指す 別府湾エコ コーストプロジェクト | 大分県 | 別府湾周辺では近年、高齢化・過疎化が進み農村、漁村地域において自然環境の荒廃が進行している。そこで大分県の豊かな生態系及び生物多様性を保全し、健全な自然環境に修復、再生し、次世代に継承する責務を担うためにNPOを設立。 本プロジェクトでは、大分市田ノ浦ビーチ内に海洋環境教育の拠点を創出し、SDGs目標14(海の豊かさを守ろう)の達成に向けた啓発、教育活動を推進するとともに、別府湾沿岸の住民とネットワークを構築。定期的な海岸清掃や海岸植生の手入れなどを協働で実施し健全な海岸生態系の保全を図る。 | ○ | ○ | ○ |
| 7 | 団体名： 特定非営利活動法人 エー・ビー・シー野外教育センター プロジェクト名： 子どもたちのウエス作りが別府市の水環境を変えていく！ | 大分県 | 大分県内で「青少年への自然体験活動」などを行っている民間団体・大学教授・教職員・社会教育主事などを中心にメンバーを募り、ボランティアや単発での活動に終わらない団体設立を目指し、NPO法人化を実現。 本プロジェクトでは、市内の幼稚園・小学校の授業に出張をして、生活排水の学習会と古布・古着などを小さく切り刻んだウエス(食器の油・汚れ落としの布)作りと使い方のワークショップを行う。また、市内の川で地域住民を巻き込んでの清掃活動を行う。 | ○ | ○ | ○ |

| | 団体名・プロジェクト名 | 活動地域 | 活動内容 | 助成期間 | | |
|---|---|-------|--|--------|--------|--------|
| | | | | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
| 8 | 団体名： 公益社団法人 アジア協会アジア友の会 プロジェクト名： 住民主体のごみ管理 クリーンでグリーンな地域・学校 ー水環境のために | フィリピン | 1979年に活動をスタートした、アジアに“生命の水”を贈る国際協力NGO団体。現地提携団体は現在18カ国70地域に広がり、ネットワークで連携しながら、地域ごとの実情に根ざした活動で人々の自立を目指している。 本プロジェクトでは、ごみ処理システムが整わないフィリピンの農村において、ごみの分別とリサイクル、堆肥化促進により、安全とは言えない不衛生な生活環境や水環境を改善する。前年度に活動した村を拠点に、近隣の村や学校にも活動を広げる。特に未来を担う子ども達の環境意識を高め、将来にわたり地域や地球の水環境を守ることに繋げる。有機肥料で安全な野菜を栽培し、栄養改善や収入の少ない家庭の暮らしを支えることで、事業が継続するよう推進する。 | ○ | — | — |
| 9 | 団体名： 特定非営利活動法人 ウォーターエイドジャパン プロジェクト名： インド ビハール州における水・衛生プロジェクト | インド | 「2030年までにすべての人がすべての場所で清潔な水とトイレを利用し、衛生習慣を実践できること」をビジョンとし、2013年に日本法人を設立。途上国での水・衛生プロジェクトの実施、国内外での政策提言、学校との連携による開発教育・各種イベントを通じた関心喚起に取り組んでいる。 本プロジェクトでは、地下水の水質汚染ならびに給水設備の維持管理が課題であるインド ビハール州バーガルプル県において、水質検査およびその結果を踏まえた対応策の実施、給水設備の維持管理の体制を構築し、人々が持続的に安全な飲料水を得られるようにする。また、医療体制が整っていない農村部においてコロナ感染が爆発的に拡大したことをうけて、人々が手洗い等の衛生習慣を継続して実施するよう衛生習慣の啓発を実施する。 | ○ | — | — |

| | 団体名・プロジェクト名 | 活動地域 | 活動内容 | 助成期間 | | |
|----|---|-------|---|--------|--------|--------|
| | | | | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
| 10 | <p>団体名： 特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構</p> <p>プロジェクト名： 教えて！「トイレにまつわる保健と衛生について」</p> | エチオピア | <p>2001年に起きたインド大地震の国際災害緊急支援をきっかけに設立。開発途上国の人々を支援する国際協力団体として、コミュニティー開発支援事業などの国際開発事業、大災害緊急支援事業を展開している。</p> <p>本プロジェクトでは、児童や保護者、教師など、住民たちの作業協力を得て学校トイレ建設や手洗い場を設置し、環境整備と共に現地の方の当事者意識を育む活動を実施。また、学校トイレ建設を通じて分かった「生理」への知識不足に対し、啓発活動のみならず児童や保護者に対して理解を深めるための授業など、衛生教育に力を注ぐ。</p> | ○ | — | — |
| 11 | <p>団体名： 認定特定非営利活動法人 道普請人</p> <p>プロジェクト名： 泉の保護、植林を通じた強靱なコミュニティ整備</p> | ウガンダ | <p>「住民自身が実現可能なシンプルな工学技術で、発展途上国の人々を幸せにしたい」というコンセプトが原点となり設立。「開発途上国の問題は、現地に適したやり方で、そこに住む人々自身で解決していく」ことの実現を目指す。</p> <p>本プロジェクトでは、ムコノ県で課題となっている水のアクセスと環境保全に着目し、県内で水へのアクセスが最も乏しいナクスンガ副郡にて新たに泉の水源保護設備を設置する。また、小学生を中心とした植苗で地域の森林保全に寄与する。</p> | ○ | — | — |
| 12 | <p>団体名： 特定非営利活動法人 コンフロントワールド</p> <p>プロジェクト名： ウガンダでの家庭用トイレ建設、貯水タンク建設、石鹼生産</p> | ウガンダ | <p>「不条理の無い世界の実現」を目的に2018年設立した国際協力NGO団体。「紛争・貧困などによって困難な状況にある人々の自律を後押しする」「情報と選択肢を届け、人々の社会貢献を後押しする」をミッションに、ウガンダでの衛生環境改善や国内での啓発活動等を行っている。</p> <p>本プロジェクトでは、ウガンダでの家庭用トイレ建設、貯水タンク建設、石鹼生産、手洗い施設設置の拡充に取り組む。</p> | ○ | — | — |

| | 団体名・プロジェクト名 | 活動地域 | 活動内容 | 助成期間 | | |
|----|---|--------|---|--------|--------|--------|
| | | | | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
| 13 | 団体名： 一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会 プロジェクト名： モザンビーク共和国・紛争避難施設の水環境整備活動 | モザンビーク | 環境問題と貧困問題のジレンマ、先進国と後進国の都合論の不調和を解消すべく、2013年に設立。国際支援が行き届かず、教育や衛生問題、貧困の連鎖をはじめ深刻な問題が山積しているモザンビーク北部において、貧困層の住民一人一人が自らの力で解決できるようにサポートしている。 本プロジェクトでは、モザンビーク共和国ナティティ避難民の家に給水タワーを建設、またエスパンサオン地区に共同水場を新設することで、紛争避難民を含むスラム地区の住民が円滑かつ効率的に安全な水のアクセスが可能となり、生命を守ると同時に、衛生的な暮らしの改善に貢献する。 | ○ | — | — |

「TOTO水環境基金」ホームページ <https://jp.toto.com/company/csr/mizukikin/>

ウェブサイトでは、各団体の活動内容について写真を交えて紹介。
 活動に携わった方や現地の皆さんの喜びの声も紹介し、
 より具体的に活動の目的や意味・成果をお伝えしています。

新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030

新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030



「環境・社会的価値」と「経済価値」を同時に実現する新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030では、「きれい快適」「環境」「人とのつながり」を取り組むべき重要課題「マテリアリティ」として経営とCSRの一体化に取り組み、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」にも貢献していきます。

<https://jp.toto.com/company/ir/individual/vision/index.htm>